

# 言葉を正しく使うために

～漢字の書字意識を高める～

鈴木 健一

The Appropriate Use of Wordage Promoting Kanji Graphic Awareness

Kenichi SUZUKI

キーワード：手書き文字 漢字の誤記 書字指導

## 1. はじめに

### (1) 手書きの機会

ワープロ文化の時代である。手書き文字による表記が減っており、日常生活の中で手書きの文字を目にする機会が少なくなっている。

しかし、本学の学生にとっては、手書きする（手書きしなければならない）場面・物は決して少なくない。

平常の

- ・学習の整理（ノート）
- ・学習後の振り返り票
- ・試験の答案やレポート
- ・模擬保育・授業の指導案

に加えて、実習時には

- ・実習の課題と抱負
- ・指導案
- ・実習日誌
- ・実習の反省と課題
- ・現地調査報告書
- ・お礼状

の記述があり、就職すれば

- ・園児や遊具の名前
- ・壁面の掲示物
- ・指導案
- ・保育日誌
- ・保護者への連絡帳
- ・クラスや園のお便り
- ・日直時の園の活動記録

など、まだまだ手書きで表記する機会が残っている。

### (2) 誤表記の恐れ

手書きの文章で大切なことは何だろうか。文字が上手に書かれていることも大事なことはあるが、何より重要なのは「誤字がない」ということである。古典的と言える事例、「恋しい」が「変しい」と誤表記された手紙を受け取った相手の心情は、容易に想像できよう。

誤字があると、内容がどんなに良くても、その文章の価値を下げてしまうし、場合によっては信頼関係を損なうことにもつながってしまうのである。

ワープロ使用でなく手書きであるが故に、誤字が出現する割合も高くなるとも考えられる。だからと言って、誤字があってもしかたがないということにはならないはずである。私たちは文字に頼った生活をしている。文字の働きやその有効性・優位性を知っている。だからこそ私たちは、普段から、「誤字を書かない」ということに、もっと神経を使う必要がある。

## 2. ねらい

前述のように、本学の学生には、現在も将来も手書きで文字を書く機会がたくさんある。学生は誤字を書いていないか。提出された物を見ると、残念ながら誤字が散見する。

そこで、本研究においては、次の2点をねらいとした。

①学生の漢字誤記の実態をとらえる。

②漢字を正しく書こうとする意識を育てる

### 3. 方法と内容

#### (1) 誤表記調査

##### ①調査対象

対象は、本学の保育コースの2年生150名が「保育・教育実践演習」の授業後に書いた振り返りの文章とした。12行の罫線が引かれた用紙に8分程度の時間で書いたものである。(後掲資料①参照)

グループによって日時は違うが、講義に続けて少人数集団での話し合い、発表による交流という同じ形態・内容で実施した授業である。5グループのうち、グループDのみ記入時間が多少短くなってしまった。そのため他のグループに比べて分量がやや少ないものの、記入はできている。

150例中、分量が最も少ないもので4行、多いものは枠外にはみ出す形で13行になっている。10行前後記入している例が、大多数であった。

##### ②調査方法

学生の記入した文章それぞれについて、使用されている漢字数と誤表記の数を延べ数で調べた。ただし、次のような条件を設定して調べることとした。

- ・書体による点画の変形や省略は誤りとししない。「組」「校」など
- ・漢字とかなの使い分けで、かなで書くべきところを漢字で書いたものは対象としない。「～という事が」「～の様に」など。
- ・代表する漢字で書いてかまわないところを、場面や状況を考えて使い分けしているものは、誤字にしない。「聞」と「聴」など。
- ・漢数字で書くべきところをアラビア数字で書いたものは、カウントしない。「1人(ひとり)」「1部分」など。

##### ③調査結果

150例中、最も漢字の使用が多かったものが延べ154字、最も少なかったものが延べ36字であった。その中で、誤表記が見られたのは38例であった。

使用漢字総数(延べ数)は13080字、誤表記総数(延べ数)は68字で、総数に占める誤

表記の割合は、0.52%であった。(資料②参照)

誤表記は、重なりがあったが、集約して異なる数を調べると、31種類見られた。部首モンガマエを略字で書いたものは、5例あり、同じパターンの誤字とまとめて考えることもできるが、ここでは文字単位で整理することとした。事例は以下のとおりであった。

誤表記	正解	出現数
環境	環境	13
印象	印象	2
達	達	8
除々に	徐々に	2
若物	若者	
思い	重い	
参降	参考	
影響	影響	
一到	一致	
援業	授業	
実習に望む	実習に臨む	
褒める	褒める	4
合う	会う	
提共	提供	
聞	聞	4
組む	汲む	
短語	単語	2
確得	獲得	
新めて	改めて	
育	育	8
間	間	
開	開	
葉	葉	2
語彙	語彙	
最語	最後	
関	関	2
恥	恥ずかしい	
意見	意見	
閉	閉	2
声	声	
相像	想像	

## 言葉を正しく使うために

では、これら 31 種類の漢字は、どの時期に学習されたものであろうか。文部科学省の示す学年別漢字配当表<sup>1)</sup>によると、次のように整理できる。

配当学年	漢字
小学 2 年生	考、会、聞、間、後、声
3 年生	者、重、育、葉、開、意、想
4 年生	象、達、単、改、関
5 年生	授
6 年生	臨、供、閉
中学生以上	環、徐、響、致、褒、汲、獲、彙、恥

### ④傾向分析

- 150 例中 38 例に誤表記が見られた。これは全人数の 25% に当たり、4 人にひとりが誤表記をしていることになる。調査対象を広げれば、さらに割合は高くなるだろうと考えられる。
- 漢字の誤表記は 0.52% であり、高い数字ではないとも言える。しかし、学生は、多くの場合、知らない漢字は書かないし、不確かな漢字も書かない。知っている漢字、自信のある漢字として使用しているにも拘わらず、これだけ誤表記があるということは、見過ごすことのできない状況にあると考えられる。
- 長い文章になれば、使われる漢字の数も多くなるのは当然のことである。しかし、漢字の使用数が多くなれば誤記も増えるとは、必ずしも言えない。
- 学習の形態や内容、話題が共通なので、誤りやすい漢字も同じもの、同じ箇所になっている事例が少なからず見受けられた。今回の調査では、対象を限定して調べたために、広い範囲にわたって漢字の誤記が出現しているのかどうかについては、確かめられなかった。
- 小学校 2 年生の学習漢字から誤字が出現しており、低学年での学習漢字だから誤字が少なく、高学年や中学校で学習する漢字

だと誤記が多く見られるということも、当てはまらない。

### (2) 書字意識の調査

#### ①調査対象

誤表記の調査対象になった学生と同じ学生 150 名。すでに幼稚園や保育園での実習を終えている学生である。

#### ②調査方法

これから先保育活動をしていくうえで、さらに磨いていきたい言語能力は何だと考えるか。順位を付けて三つ挙げてもらった。選択肢は次の通りである。

ア 話を聞く力  
イ 話す力  
ウ 読む力（読み聞かせもこちら）  
エ 書く力（文章に書き表す力）  
オ 文字力（特に漢字を正しく使う力）  
カ まとめる力（聞いたり読んだりしたことを）  
キ その他

#### ③結果

有効回答数は 149 であった。選択肢ごとの指摘数は以下のとおりであった。

	1 位	2 位	3 位
ア 話を聞く力	26	24	16
イ 話す力	74	39	20
ウ 読む力	3	8	22
エ 書く力	14	25	28
オ 文字力	3	9	24
カ まとめる力	29	43	39
キ その他	0	2	1

数字は指摘された数

その他の 2 位の回答は、「ボキャブラリー」「説明する力」であった。

この回答内容に、1 位は 3 点、2 位は 2 点、3 位は 1 点を与え整理してみると、以下の表のようになる。

	得点	ランク
ア 話を聞く力	142	3
イ 話す力	320	1
ウ 読む力	47	6
エ 書く力	120	4
オ 文字力	51	5
カ まとめる力	212	2

#### ④傾向分析

昨年度も同じ調査をして結果を得ている<sup>2)</sup>。本年度の調査結果を昨年度のものと比べてみると、アの「話を聞く力」とエの「書く力」の順位が入れ替わっているが、それ以外は同様の結果となり、同じような傾向にある。

実習で苦労してきたこともあって、学生の意識は「話す力」や、聞いたり読んだりしたことを「まとめる力」に多く向いている。漢字を正確に書く「文字力」は3位での指摘が多く、ポイントランクでは5位となっている。学生の関心の度合いは、かなり低いと言える。

### 3. 指導

#### (1) ねらい

この調査で明らかになった漢字の誤表記は、誤って書いてしまうかも知れない漢字の一部に過ぎない。他のものを調査すれば、さらに別な誤表記の事例が見つかる。どの漢字も誤表記される虞があると考えてもよいぐらいである。

私たちの生活において漢字の存在は大きく、漢字を使わずに済ますわけにはいかないことも、明らかである。

漢字の大切さを知りながらも誤字を書いてしまう学生の指導では、どのようなことを考えて漢字を書くのか、学生の書字意識を高めることによって、改善を図っていくことが重要になってくる。

そこで、書字意識を高めるための指導のねらいとして、次の3点を設定した。

- ①漢字の誤記は他人事ではなく、自分にも起こりうるのだという意識を持たせる。

- ②基本的なことから（文字の働き、漢字の特徴や有効性、漢字使用の目的など）を再確認させる。

- ③誤表記の傾向を認識させ、正しく書くための留意点を理解させる。

#### (2) 指導計画と実践

##### ①構想

##### 【導入・意識づけをする】

最初に、説明なしの状態、漢字の書き取りをする。正確に書けたかどうかは直ぐに確かめず、漢字に意識を向けさせる。

設問には、今回の調査で見られた例に加えて、これまでに現れたことのある例も入れる。「同じ読みをする別字。形が似ている場合と形が似ていない場合」「違う読みをする別字。形が似ている」「点画の過不足」「画の変形」「文字として認められない字（略字、存在しない創作文字）」の五つの方向から、計10問設定する。

##### 【文字の特性を認識させる】

文字とはどんなもので、どんな役割を担っているものなのか、「表す」「伝える」「残す」の三つの働きを捉えさせる。他の手段に比べた文字の優位性を理解させる。

##### 【漢字の特性を理解させる】

漢字を用いて表記することで、どのような効果が出てくるのかを考えさせる。表意文字ならではの働きに気づかせる。

##### 【誤表記の傾向を捉えさせる】

冒頭に実施した書き取りの誤表記の例を示し、どこが誤っているのかを考えさせる。それらの誤表記がどんなパターンなのか分類させ、傾向を捉えさせる。

##### 【対策を理解させ、心構えを作らせる】

どのようなことをすることによって誤表記を少なくすることができるか、考えさせる。

今後の学習や書字活動にどう生かしていくかを考えさせる。

##### ②実践

初等教育コース1クラス15名に対して実践した。時間は60分、指導の流れは以下の通りである。

## 言葉を正しく使うために

過程	学 習 活 動	留 意 事 項
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の書き取りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あえて何の説明もせずに、10 問の書き取りをさせる。</li> <li>5 分経過後、回収する。</li> </ul>
展開 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習課題を知る。</li> <li>文字の定義をする。</li> <li>文字の使用目的を考える。</li> <li>日本語を表記する文字の種類を挙げる。</li> <li>漢字の特性を考える。 ①次の例文を漢字を使って表す。 「はははははじょうぶだ。」 「コウテイ」 「いやあ～、れいぐうされたよ。」</li> <li>②漢字を使う意味・効果を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートフォンの辞書機能を使わせて文字とは何かを確認させる。</li> <li>記号の一つであることを意識させる。</li> <li>文字には「表す」「伝える」「残す」という目的があり、この目的を果たすためには文字を「正しく」使うことが大切であるということに気づかせる。</li> <li>漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字の 4 種類があること。一般的な文章では漢字が最も多く使われていることを確認する。</li> <li>ひらがなやカタカナの部分を漢字に直して表記させる。 一例目は、「ha」「wa」の読み分けをしながら同じ文字の繰り返しから「母は歯は」と表現できることに気づかせる。 二例目は、同音の熟語が多数あることに気づかせ、できるだけ多く挙げさせる。 三例目は、正反対の意味の熟語があることに気づかせる。</li> <li>漢字を使うことによって 「区切りが明確になり、意味が分かりやすくなる」 ことを理解させる。</li> </ul>
展開 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>誤表記に気づき指摘する。</li> <li>誤表記の傾向を考え、分類する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冒頭実施した書き取りに誤った答えを書いたものを配付し、どこが誤りかを指摘させる。</li> <li>誤用のパターンとして次のようなものがあることに気づかせ、10 個の誤りがどこに当てはまるか、分類させる。</li> <li>「同じ読みをする別字。形が似ている場合と形が似ていない場合」</li> <li>「違う読みをする別字。形が似ている」</li> <li>「点画の過不足」</li> <li>「画の変形」</li> <li>「文字として認められない（略字、存在しない創作文字）」</li> </ul>

まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字使用に当たって留意すべきことを確認する。</li> <li>学習内容を振り返って、分かったこと、考えたことなどをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大前提となる態度や学習習慣を確認させ、漢字の誤りを減らすためにどうすべきかを考えさせる。</li> <li>振り返り用紙を配付し、気づきや思いを記入させる。</li> <li>用紙を回収。</li> <li>本時の学習の要点を口頭で確認する。</li> </ul>
-----	---	---

授業中に使用するプリント（わざと誤表記をしたもの）

10	ジヨジヨに広がっていくはずだ。	(除々)
9	明日アラタめて伺います。	(新)
8	頑張ったことをホめてもらった。	(褒)
7	気持ちをクみ取って話しかける。	(組)
6	カンキヨウを整えることが大切だ。	(環境)
5	実力をハッキリする。	(発輝)
4	あの人とはちよつとした力力わりがある。	(関)
3	モクヒヨウタッセイまでもう少しだ。	(目標達成)
2	名前と顔がイッチしない。	(一到)
1	それはヒツヨウフカケツな物だ。	(必要不可欠)

◎ 次のカタカナの部分の漢字に直しなさい。

組	番号	氏名



# 言葉を正しく使うために

ワークシート（太字の部分には板書の結果）

## 言葉（文字―漢字）

1 文字とは

視覚的記号  
線や点によって組み立てられている

2 文字使用の目的

- ・表す（表現）
- ・伝える（伝達）
- ・残す（記録）

目的を果たすためには、正しく使わなくてはいけない。

3 日本語表記に用いられる文字

漢字  
ひらがな  
カタカナ  
ローマ字  
使用割合の多い順

4 漢字使用の利点

- ・ ははははははじようぶだ。 ↓ 母は齒は丈夫だ。
- ・ コウテイ ↓ 校庭、肯定、高低、行程、工程、皇帝、公定：
- ・ 「いやあ、れいぐうされたよ。」
- ↓ 「いやあ、冷遇されたよ。」
- 「いやあ、礼遇されたよ。」

切れ目がつきりし、意味が分かりやすくなる。

\* 漢字 〓 表意文字（意味も表す）

5 漢字の誤用  
（1）実例から

（2）誤用のパターン

A 同じ発音の別字

・ 形も似ている

・ 形は似ていない

B 違う発音の別字

・ 形が似ている

C 点画の過不足

D 画の変形

E 認められていない字

略字

創作文字

6 漢字使用に当たって留意すべきこと

を大前提として

- ・ 落ち着いて書く。書いたら見直す。
- ・ ふだんから辞書を引く習慣を身につける。

その文字の意味を意識する。

音読みのものは訓読みをしてみる。  
訓読みのものはその文字で熟語を作ってみる。

一到

達（八画目）

環（十五画目）

関（モンガマエ）

褒表（十二、十三画目）

発輝 除々に

不可決 組み取る 新めて

### (3) 指導を終えて

#### ①漢字練習の結果

授業の冒頭で行った漢字練習の正答率と誤記の例は以下のとおりであった。

No.	正解	正解率	誤記例
1	不可欠	66.7%	不可決 5
2	一致	86.7	到 秩
3	達成	80	達 3
4	関	100	
5	發揮	73.3	起 3 輝
6	環境	86.7	環 2
7	汲む	13.3	組 7 扱渥 無回答 4
8	褒める	20	褒 5
9	改めて	100	
10	徐々に	26.7	除 10 序

#### ②学生の学び

授業後の学生の反応は、記述したものから引用すると、次のようであった。

##### 【学習の意義】

- ・漢字の必要性は認識していたが、改めて考える良い機会となった。児童に対して漢字の利用を徹底していくときに、児童に重要性を理解させる方法の参考となった。
- ・授業最初の漢字テストを受けて、漢字のミスを例にあげて、何故間違えたのか、正しい漢字だと断定する理由などを考えながら、漢字の成り立ちや正しく覚える方法を、自然と自分で考え、知ることができました。テストの意図が授業の最後に分かりました。小学校教師を目指す上で基礎となる講座だと感じました。
- ・今回の授業を通して、改めて日本語について分かりました。「文字」とは何で、何のためのものなのか、考える機会がないと考えないと思うので、良い機会になりました。

##### 【文字や漢字に対する認識】

- ・今回の漢字テストで自分の実力の無さがわかった。

- ・私たちが普段使っている言葉は、深く考えると意外に難しいなと感じました。日本語表記には四つもあり、それを自然と使いこなしているの、自然に身につくものとはとても素晴らしいなと思いました。児童も文字の意味や漢字の意味について知ったほうがいいなと思いました。その方が、もっと文字や漢字に興味をもつことができる児童が増えると思います。
- ・日本語は同じ読み方などあり、難しい表現の文字だと思いますが、奥が深く美しい言葉が多いので正しく使っていきたいと思います。
- ・文字について考えることは今まで一度もなかったの、調べたり考えたりできて良かったです。
- ・漢字で表すことで、ひらがなやカタカナでは分からないものの意味も分かるので、すごいものだと感じました。
- ・今日の学習を通して、私たちが普段使っている日本語について改めて考えることができました。特に漢字については、意味を持った表意文字であるため、意味まで理解して書くこと、確認として、音読みのものは訓読みをすること、訓読みは熟語にしてみることなどのポイントを知ることができました。
- ・普段当たり前前に書いている文字について、今回の授業で深く学んだことで、今まで気にしていなかったことにも気がつくことができました。まず、文字のはたらきについてです。伝えること、記録すること、表現することの三つについて、自分だけの力で考えたときには出てきませんでした。それほど文字は日常生活になじんでいるのかなと思いました。
- ・ひらがな・カタカナ・漢字・ローマ字など多数の文字を使用しているのは日本独自なので、もっと日本の文字に対して意識を高めていきたいです。
- ・普段当たり前前に使っている文字の意味を考えてみて、何のために使うのか、使うことによって何が変化するのが明確になりました。

##### 【漢字使用に対する意識】

- ・意味を考えながら漢字を書くということが、



## 言葉を正しく使うために

とても印象に残っている。

- ・文字が「表す、伝える、残す」という大きな三つの目標を果たすためにも、「正しく使う」ということがとても重要だなと改めて思いました。
- ・漢字なども似ている漢字とまちがえていたり、点画の過不足があったりと、自分自身もまちがえているところもあったので、普段から辞書を引いたりして、正しい文字を書いたり使ったりしていきたいと思いました。
- ・「5 誤用のパターン」の部分で、普段漢字を使う上で何を間違えやすく、どこに注意すべきかを学べたので、日常生活でも活かしたいと思います。「6 漢字使用に当たって留意すべきこと」の部分で、「意味」「音読み」「訓読み」を意識することで、漢字をより深く理解し、覚えられるということなので、意識していきたいと思います。
- ・どれもよく使いそうな使用頻度の高い漢字ですが、間違いやすい漢字だと思います。自信満々で解答したのですが、間違えていた漢字もあり、留意すべきことを教えていただき、なるほどなと思いました。以後気をつけて取り組みたいと思います。
- ・漢字を覚えるのはとても苦手だったので、意味を意識すると覚えやすそうだったので意識したいと思いました。
- ・漢字テストも分からない漢字や間違っていたものも多かったので、意味を考えながら書くことを心がけ、はねるところや点や線にも気をつけるようにしたいと思います。
- ・間違いやすい漢字の種類分けをしたことで、少しでも間違いを少なくできるのかなと思いました。
- ・漢字を学習するコツや、どうしたら漢字を表現できるのかという部分が、全然分かっていませんでした。文字というもののそのものの存在している意味、使い分けることの大切さ、相手のことを考えて内容や文字を使うということを、理解できました。
- ・子どもたちは漢字に対して苦手意識を持ってしまうこともあると思う。そうならないために、しっかりと成り立ちや意味を教え、ゲー

ム感覚で覚えられる場を作ることが大切なのではないかと思った。

- ・私は小学生の頃から漢字を書くこと、覚えることが好きでした。漢字の小テストも得意だったので、久しぶりにやってみて楽しく感じました。ですが、答え合わせをしてみると、間違いが多かったので、復習しなければなりません。先生になる立場として書き順や意味もきちんと理解し、覚えていくことが大切だと思いました。

### 4. おわりに

わざわざ間違えようとして漢字を書く人はいない。注意不十分な状態で書くことで誤記が出現するというのが、学生の記述内容からも分かる。

今回の調査及び指導を通して、誤字を書かない認識を持たせるための働きかけとして確認できたことは、次のようなことになる。

- ① 自分は大丈夫と思わず謙虚に取り組む。
  - ② 文字特に漢字の働きを理解する。
  - ③ 誤字が出やすいパターンを意識し、対策法を試して、誤字を防ぐ。

漢字は、もちろんきちんと覚えることから始めなければならない。漢字も他のものと同様に、初めにきちんと正確に覚えておかないと、後で修正するのが難しいものである。

どうやって覚えていくべきなのか。例えば、一つ一つ覚えるのではなく部首や音符を手がかりに覚えていく方法が提唱されている。(漢字塾太郎『【新】漢字のおぼえ方』p.51～)

また、大村はま氏は次のように述べている。

「生活のどんな場面なのか、どんな人の、どんな動作、どんな気持ちを表すために、そのことばが使われているのかどんな考えかたなのかで、その漢字をふくむ熟語が使われているのか、そういうことを考えながら—そういうことがわかって、漢字を書いてほしいからです。ひとつの場面、ひとつのふんいきのなかにいっしょに身をおいて、ことばを、漢字を書いてほしいのです。そうしてこそ、ほんとうに使えるように

漢字を身につけられると思うからです。」(『やさしい漢字教室』 p.9)

漢字は、道具の一つに過ぎないが、「表す」「伝える」「残す」ということを通して、日常生活だけでなく人間関係をもスムーズにする大きな働きをしている重要なものである。だからこそ正しく使用することが何よりも重要であるということが、この学習を通して学生に理解されたと考える。誤字の減少を期待していきたい。

## 5. 引用・参考文献

- 1) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社 2011 pp.126～129
  - 2) 鈴木健一「子どもの言語環境—保育士を目標とする学生が学ぶべきこととは—」千葉敬愛短期大学紀要 第39号(2) 2017 p.231
- ・『大修館 最新国語表記ハンドブック』大修館書店 2012
  - ・漢字塾太郎『【新】漢字のおぼえ方』太陽出版 2011
  - ・大村はま『やさしい漢字教室』共文社 1981
  - ・金田一春彦『日本語の特質』NHK 出版 2007

## 言葉を正しく使うために

### 資料① 授業後の振り返り

- ・誤表記なしの例（使用漢字延べ154字）

子どもが言語を意識するのは、生まれる前からで、母親の言葉を聞いてしていると知り、母親の優しい語りかけが大切だと感じました。そして、子どもが意欲的に言葉を獲得していく時に重要なのは「快」という感情であることと学びました。だから、実習でも授業でも、快感、代弁が大切だと言われることが分かりました。実習での経験を思い返してみた時に、言葉は、とても重要な役割をしていると思いました。言葉によって、明確に自分の感情、やりたいこと、/か/してほしいことと伝え、安心感、安定感をもっているのだと感じました。子どもが安心感、安定感を増やし、過ごせるように、保育者は、焦らずに待つこと、言葉かけをすること、代弁をすることが大切だと思いました。また、他の人の発表を聞いて、保育者の普段の言葉遣いも重要なのだと分かり、普段の言葉遣いを見直さなければいけないと思いました。そして、普段から言葉に親しめる環境ということと、園児の口前が壁に飾ってあったり、ひらがなの表があったりと実習で見えたことを思い出しました。家庭との協力もとても重要な信頼関係にも必要だと感じました。

- ・誤表記ありの例（使用漢字延べ106字、誤表記1字（除々）

改めて自分が実習に行っている園の保育を振り返ってみて、とても勉強になるとがたくさんあったなと思いました。言葉遣いで印象的だったのが、悪い言葉のイメージがなかったのび他の人の意見を聞いて、こんなこともあったんだと知ることもできました。今回は言葉について勉強をし、今の子どもたちの言葉の現状を知ることになりました。子どもたちが言葉を発する機会というのはいつの手にか先生がやっている、やさしい日常の中にも子どもが成長するためのことを考えられているのはすごいなと思いました。子どもは日々成長していくのび昨日知らなかったことを学んで今日知ることがあると毎日楽しもう。私のいここは年齢を全然忘れた感じがったのびとても介抱したし、頼もたくさん話しかけてたりしていい。もうレイン降りに話そうつになつてきて、今ではもうたくさんお話しています。日々の親や先生の声かけが大切なんだということも学ばまり、今日は意見交換するこにより色々な園のことがわかったのび良かったです。

資料② 個人別漢字の使用と誤表記の数一覧

数字はいずれも延べ数

No.	グループA		グループB		グループC		グループD		グループE	
	漢字数	誤	漢字数	誤	漢字数	誤	漢字数	誤	漢字数	誤
1	154	0	131	2	87	0	70	0	86	0
2	96	0	110	0	86	0	43	1	69	0
3	107	0	76	1	152	3	46	1	61	0
4	90	0	86	2	91	0	60	0	103	0
5	125	0	86	0	127	0	65	0	71	0
6	83	0	102	0	57	0	59	0	87	0
7	104	0	125	0	91	0	51	0	51	1
8	141	0	111	2	113	1	91	1	112	0
9	105	0	102	0	101	0	64	0	59	0
10	95	0	105	0	112	0	79	0	71	0
11	101	2	116	2	79	2	98	0	107	0
12	49	5	85	0	71	0	82	0	75	0
13	106	1	120	7	71	0	79	0	125	0
14	106	0	93	0	116	0	52	1	106	2
15	103	0	82	0	115	0	87	0	98	0
16	94	0	92	1	105	1	84	0	64	0
17	88	1	115	1	73	0	100	0	83	1
18	68	0	93	2	58	1	49	0	36	0
19	86	0	84	0	99	0	69	0	71	0
20	72	1	101	0	102	0	61	0	103	1
21	79	0	72	0	120	1	85	2	92	0
22	57	5	121	0	78	0	58	0	61	0
23	83	0	100	1	78	0	95	0	60	0
24	91	0	88	0	104	0	80	0	106	1
25	86	1	47	0	89	0	43	1	106	0
26	89	0	54	0	70	1	56	0	109	0
27	58	0			94	0	59	0	84	0
28	81	0			118	0			88	0
29	77	1			88	0			110	0
30	80	0			110	0			102	1
31	87	2			107	4			100	0
32					111	0				
33					102	0				
34					101	0				
35					135	0				